

- 福岡県のスモモ産地は、高齢化、担い手不足が進行し、過去10年で栽培面積が約2割、生産者数は約3割減少し、**スモモ産地の維持が喫緊の課題**。
- このため普及指導センターは、**早期成園化や省力化が可能なスモモジョイント栽培の導入を検討し、「スモモジョイント栽培マニュアル」を作成するとともに、栽培技術の普及を推進**。
- その結果、**スモモジョイント栽培の面積は大幅に増加し、福岡県のスモモ産地育成に大きく寄与**。

具体的な成果

1 新技術による省力効果・収益性の確認

■「ジョイント栽培」による労働時間削減

作業項目	二本主枝(慣行) 時間/10a	ジョイント栽培 時間/10a	削減率
せん定(秋季・冬季)	76	64.7	15%
着果管理(摘蕾・摘果)	72	36.8	49%
収穫	86	62.8	27%
その他	243	243	0%
合計	477	407	15%

■二本主枝とジョイント栽培の収益-経費の推移



2 栽培マニュアルの作成

■栽培技術の高位平準化と広域普及に向けた**技術者用の栽培マニュアル策定**

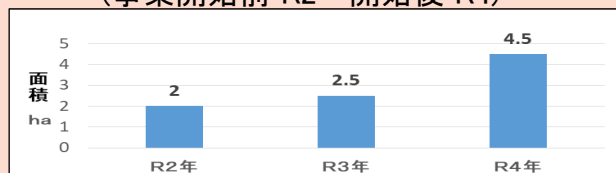


ジョイント作業や管理作業を分かりやすく解説

3 栽培面積の増加

■スモモジョイント栽培面積大幅増

(事業開始前 R2→開始後 R4)



普及指導員の活動

令和3年

■ジョイント栽培の技術確立に向けた取組

- ・栽培技術検討会の開催(パッケージセンター利用、秋冬季せん定、ジョイント実演)
- ・現地実証園の設置
- ・主産県(群馬県)への先進地調査
- ・ジョイント栽培マニュアル案の検討

令和4年

■ジョイント栽培の普及に向けた取組

- ・栽培技術検討会の開催
(秋冬季せん定、ジョイント実演)
- ・現地実証園での実証試験
(ジョイント仕立て法による効果の検証)
- ・ジョイント栽培先進県(神奈川県、埼玉県)への現地調査
- ・ジョイント栽培マニュアルの策定
- ・マニュアルを基にした推進資料の作成

普及指導員だからできたこと

・専門技術を有し、試験研究機関との連携を図るとともに、他の関連機関と情報共有している普及指導員だからこそ、**新技術の導入を推進し、福岡県に適した栽培方法の確立が可能であった。**

・先進的農業者、JA、研究機関、他県の関係者との交流を進め、多方面からの意見収集を通じて、新技術導入の必要性について合意形成が図られ、**関係機関一体となって、新技術の普及拡大を進めることができた。**

福岡県

スモモジョイント栽培の普及拡大に向けた取組み

活動期間：令和 3 ～ 4 年度

1. 取組の背景

本県のスモモの生産は、栽培面積が 65 ヘクタールで全国第 10 位の西日本有数の産地である。しかし、担い手の高齢化で栽培面積、生産量ともに減少傾向であるため、高品質なスモモが省力的に安定生産できる技術の導入が急務である。

そのような中、数年前から一部の生産者でスモモジョイント栽培技術が試作され、せん定や受粉等の作業時間が大幅減少することが確認された。



図1 スモモジョイント栽培園

そこで、本技術を本県の状況に応じた形で確立し普及させるとともに、生産された果実を産地または県域で調製・パッケージするシステムを整備することで、高齢生産者の離農時期の先延ばしや中核農家の規模拡大、新規参入者の増加を図り、産地の維持拡大につなげる。

2. 活動内容（詳細）

「生産体制・技術確立支援事業（令和 3 ～ 4 年度）」を活用し、普及指導員が中心となって、本県におけるスモモジョイント栽培の技術確立と普及拡大を推進した。

具体的には、福岡県内の J A および J A 全農ふくれん（全国農業協同組合連合会福岡県本部）と協力し、スモモジョイント栽培技術の確立に向けて、パッケージセンター利用、秋冬季せん定、ジョイント実演等の栽培技術検討会の開催、ジョイント仕立て法の効果を検証する現地実証ほの設置、ジョイント栽培先進県への現地調査等を行った。

これらの取組みをもとに、スモモジョイント栽培マニュアルを策定し、各産地での技術指導に活用してもらうことで、スモモジョイント栽培の普及拡大に取り組んだ。

■令和 3 年度

- ・農業革新支援専門員を中心に、普及指導センター、福岡県内の J A および J A 全農ふくれん（全国農業協同組合連合会福岡県本部）によるプロジェクトチームを結成した。
- ・県内に 4 か所の現地実証ほを設置し、ジョイント後の枝管理や平棚ジョ

イントと V 字ジョイントの実証試験を実施し、栽培技術の確立や導入効果の検証を行った。

- ・現地実証の結果、ジョイント栽培に適した枝管理技術が確立され、ジョイント栽培の導入効果が明らかとなった。
- ・スモモ主産県の群馬県においてジョイント栽培の現地視察調査を行い、スモモジョイント栽培におけるポイントについて情報収集し、プロジェクトチームで情報共有を図った。



図2 ジョイント栽培現地実証ほ園

■令和4年度

- ・県内4カ所の現地実証ほを設置し、側枝の配置数、適正着果量および収量性の検討を行った。
- ・栽培技術検討会を開催し、ジョイント栽培の秋季管理、冬季せん定およびジョイント接ぎ木法の検討を行った。また、ジョイント新植園においてジョイント接ぎ木法の実演会を行った。
- ・ジョイント栽培先進県の神奈川県、埼玉県においてジョイント栽培の現地視察調査を行い、ジョイント栽培の接ぎ木法および効率的枝管理について情報収集し、プロジェクトチームで情報共有を図った。



図3 ジョイント栽培先進地調査

3. 具体的な成果（詳細）

- ・ジョイント部の接ぎ木は、下枝の接ぎ木予定部の表面を削って形成層を露出させ、下枝の皮の先の一边を残しておく。その後、くさび型に削った上枝を下枝の切れ込みに挿し込み、形成層同士を密着、固定させる。また側枝の更新は、新梢発生のため、枝の基部を3cmほど長めに残す。
- ・栽培技術の高位平準化と広域普及を図るために、2カ年の取組み結果や先進地視察の優良事例を集約した指導者向けの栽培マニュアルを策定し、県内のJAおよび普及指導センターへ配布した。
- ・関係機関との連携でスモモジョイント栽培の導入が進み、作付面積は当初の2.25倍の4.5haまで拡大した。



図4 ジョイント栽培マニュアル
(ジョイントの手順)

4. 農家等からの評価・コメント

(古賀市 秋山氏)

カンキツ、スモモ、ケール、トウモロコシ、水稻の複合経営を行っていますが、スモモに関しては全量 JA 全農ふくれんパッケージセンターへ出荷し、出荷調製作業の労力削減に取り組んでいます。また今回、スモモ 31a 中 8a にジョイント栽培を導入し、作業動線の直線化による枝管理、除草、防除および収穫作業の作業性改善と労力軽減を期待しています。枝管理では、側枝の配置や更新方法等、これまでと違った栽培管理が必要になりますが、ジョイント栽培マニュアルを参考に組み込みます。今後、普及指導センターや JA 等の関係機関のご助力を頂きながら早期安定生産を図り、さらにジョイント栽培の面積を拡大したいと思います。

(JA 全農ふくれん 生産業務担当者)

スモモジョイント栽培マニュアルは、神奈川県で開発されたナシのジョイント栽培をスモモの特性に応じて見直し、苗育成から定植、ジョイント、枝管理、収穫までの栽培管理が詳細でわかりやすく掲載されており、各産地の技術指導のツールとして活用いただけるものと思います。栽培マニュアルを活用することで技術の広域普及と高位平準化も図られることから、今後の福岡県産スモモの生産力向上に繋がるものと期待しています。

5. 普及指導員のコメント (北筑前普及指導センター・技師・青木日向子)

当地域のスモモジョイント栽培は、R 2 年～R 3 年において、既存のスモモ生産者 6 戸および新規スモモ生産者 1 戸が導入し、R 5 年～R 6 年に収穫開始の予定である。また、R 4 年には新規生産者 3 戸が導入している。更なる普及拡大を目指して、福岡県園芸振興推進会議の一員として「スモモジョイント栽培マニュアル」の作成に携わり、今後のジョイント栽培現地検討会における技術資料として活用していく予定である。今後、人工授粉等の結実安定対策を図って早期安定生産を支援し、ジョイント栽培の普及拡大と産地の活性化に取り組みたい。

6. 現状・今後の展開等

県内のスモモジョイント栽培は、R 2 年～R 4 年にかけて急激に導入が進み、今回作成したマニュアルは、定植後の管理における技術資料としての活用が大いに期待できる。マニュアルには V 字ジョイント栽培も登載しているが、収量の実績がないため、今後、収量調査を行い、収量性のデータを追加登載する。これにより、作業姿勢の改善による軽労化が図られる V 字ジョイントの導入についても推進していく予定である。